

インド・ネパール仏教遺跡巡礼紀行

大信寺住職 岡田真幸

お釈迦さま生誕の地 ルンビニ

紀元前 5 世紀、お釈迦さまは、母親のマーヤー夫人がお産のために実家へ里帰りする途中にルンビニの花園で休んでいた時に夫人の脇の下より姿を現し誕生したといわれる。本名をゴータマ・シッタッタといい、釈迦とは部族名をいう。筆者は 2009 年 2 月 15 日夕刻、インド・ネパール国境を徒歩で越え、更に満員バスに揺られてここへ到着した。



2003 年に完成したマーヤー聖堂 ネパールは仏教国、この日はお祭りのため大勢の信者でごった返していた。



マーヤー聖堂の内部には紀元前 3 世紀～7 世紀の聖堂の礎石が保存されている。



アショカ王が置いたとされる生誕の場所を示すマークストーン(右)と生誕を表した石像(左)石像の表面はイスラム教徒によって削り取られている。



マーヤー夫人が出産前に沐浴し、お釈迦さまの産湯にも使われたというプスカリ池。その背後には菩提樹がそびえている。

お釈迦さま涅槃の地 クシナガラ

45 年間インド各地にて、多くの人々に自分の覚りを説き聞かせ、苦しみの海に沈む人々を導き続けたお釈迦さまは、ついに病み疲れた体をクシナガラに地に横たえた。そして 2 月 15 日 80 歳の生涯を終え、この地より旅立った。筆者は 2009 年 2 月 15 日早朝 8 時に到着した。まさに、涅槃の日であった。



朝日に映える涅槃堂とストゥーパ、そして沙羅双樹



涅槃堂の内部には頭を北に向けた涅槃像、5 世紀に作られ、19 世紀に発掘された。信者によって金箔が貼られている。ここで一人涅槃会を開筵した。



涅槃堂から 1km 東にはお釈迦さまが茶毘にふされた地があり、ストゥーパが立っている。

観光客目当ての物乞いの子どもたち(右)。

